

[討論]



入学センター
堀中 春菜 氏

○丸山 ありがとうございます。それでは、2人目のコメンテーターをお願いをしたいと思います。入学センターの堀中さんです。こちらは教育部局ではなく、入試等々を扱っている関係部署ということになります。よろしくお願いします。

○堀中 ご紹介にあずかりました入学センターの堀中と申します。本日は学外からお越しいただいた方も多いということで、まずは本学の入試制度、それから現状と課題につきまして、最初に池田先生がお話しされたところと重なる部分もございますが、お話をしていきたいと思います。

先ほど4人の海外からお越しいだきました先生方が、EJUの壁が高いとか、奨学金の壁が高いというお話をされていらっしゃいました。今から私がお話することはその壁だらけの話で心が痛い部分もありますが、きょうの話をきっかけに今後進んでいくという話でしたので、正直にお話をしたいと思います。よろしくお願いたします。【スライド⑧-1】

まずは、本学の学部の外国人留学生入試の入試制度についてです。こちら3種ございます。立教大学は全部で10学部ありますが、そのうちの9学部で実施しているのが、一番上のEJUを利用した入試です。この入試制度が、一番出願者が多い種別になります。2019年度の入試につきましては、来週が合格発表のため、実績をご報告できませんが、2018年度入試ですと、1,067名が出願、181名が合格となっております。次が2番目、先ほどから話題に上がっている日本語能力試験を利用した入試です。こちらは10学部あるうち異文化コミュニケーション学部のみで実施しております。こちら2018年度は22名が出願、12名が合格となっております。3番目は、本学での筆記および面接試験という

ことで、コミュニティ福祉学部と異文化コミュニケーション学部の2つの学部で実施しているものです。こちら2018年度は50名の出願がありまして、合格が12名となっています。全てトータルすると、昨年1,139名ですが、国籍、地域別で見ると、中国が700名弱、韓国が400名弱、台湾、香港、ベトナムが10名から20名の間で、そのほかは一桁というのが現状でございます。ただ、EJUを使った入試と日本語能力試験を使った入試ですと、受けてくる国籍の層というものも違ってきますので、そのあたりもお話したいと思います。

この3種の入試の全てでウェブ出願を行っておりますが、入試要項も出願サイトも日本語版のみで、英語版は用意しておりません。基本的には、やはり授業は日本語で行われるため、それを理解していただきたいというのが今までの流れとしてあります。ただ、入試方法の説明については、本学WEBサイト内に英語版を用意していますし、冊子としては日英中韓の4種類を作っております。【スライド⑧-2】

こちらは先ほどと同じ3種類の入試ですが、EJUを使った入試と日本語能力試験を使った入試は書類選考のみで行うものであり、本学に来校することなく受験することが可能な、いわゆる渡日前入試になります。3番目の筆記および面接というのは、本学に来校していただき、日本語の試験と面接を行う形になっております。

EJUを使った入試というのは他大学でも実施しておりますが、他大学の場合にはEJUの成績のみならず、そのあと大学にて面接や小論文を課すところが多いのですが、本学は9学部全てで書類選考のみになっております。【スライド⑧-3】

全ての入試におきまして、2019年度より、英語外部試験の成績の提出を出願資格に加えました。そのうち、1番と3番の入試は、特にスコア基準を定めておりません。2番に関しては、異文化コミュニケーション学部ですので、やはり英語力を求めたいということで、IELTSが6.0以上、またはTOEFLiBTが80以上という基準を設けております。

ただ、これは外国人留学生入試に限ったことではなく、本学のいわゆる自由選抜入試や国際コース選抜入試などの特別入試、他大学でいうところのAO入試、自己推薦入試というものに近いですが、そのような入試においても英語外部試験の成績の提出を求めていますので、立教大学の入試全般として英語外部試験を

活用し英語 4 技能の力を測る方向に向かっていると行ってよいと思います。

ただ一方で、英語を母語とする方から、自分は母語なのに英語外部試験の成績を出さなくてはいけないのかという問い合わせを受けたこともあります。やはりこれは、出願資格に定めているものなので、英語が母語であれば不問です、ということが現時点ではできないんですね。その方は実際にやはり今から受けてもスコアの提出が間に合わないということで、出願には結びつかなかったのですが、今後、考えていくときにそこも 1 つポイントかなと思っております。【スライド⑧-4】

次に、本学の中で出願者数が一番多い EJU を利用した入試制度の特徴をお話しさせていただきます。EJU の実施は JASSO が行っているものですが、日本以外では 14 カ国 17 地域で行っております。本日ご登壇いただいた先生方の地域も含まれておりますが、中国では、香港のみの実施となります。また、ロシアは、広大な国土のなかで、ウラジオストクでしか実施されておらず、しかも前回の受験者が 1 名ですので、そこから直接出願をしてくださる方はいない状況です。本学も EJU を使った入試は 7 割強が日本からの出願です。残りはほとんどが韓国からの出願です。韓国はソウルと釜山で実施しており、そこから直接出願してくる方が多いです。ほかには香港やシンガポールで受験した方の出願が数名程度、となっています。【スライド⑧-5】

一方で、日本語能力試験に関しますと、かなりの国で実施していますし、これはレベルが N5 から N1 までいろいろありますけれど、認知度としても非常に高く、受験者数も多いものになります。ただ、先ほどの EJU に関しましては、本学は日本語だけではなく、理系を除く全ての学部で総合科目を課していますし、一部では数学を課す学部もあります。あとは理学部でしたら理科の科目もありますので、日本語能力を測るだけでなく、いわゆる留学生の方のセンター試験というような形で本学ではとらえております。【スライド⑧-6】

本学の外国人留学生入試制度の出願資格についてですが、このスライド部分に表示してあるものがややこしく、この部分についての問い合わせがかなり多くあります。他大学ですと、12 年の教育課程を修了していること、とだけ書いてあるところが多いため、ちょっとこの部分が複雑かなということが正直ございます。先ほどアンナ先生がお話しされていましたがロシアは 11 年制ですので、11 年制の国の制度ですとこのままストレートに大学に入学することはできません

ん¹⁾。ロシア以外にもマレーシアが同様に11年制の教育制度の国であります。今までの経験上、ロシアの方は、アンナ先生がおっしゃったように、ロシアの大学に行ってそのあと日本に来るとい方が多いのですが、マレーシアの方は11年終えたあとに日本に来て、日本の準備教育課程を修了してから出願してくるとい方が多い印象です。【スライド⑧-7】

ちなみに、最近では、例えば、中国の方が中国で高校2年生まで終えて、その学校と提携している日本の学校に編入して、日本の高校卒業予定で出願する、というケースもあります。あとは、高校1年生のときから日本に留学しているという方もいるのですが、3学年まるまる、日本で高校を過ごした場合は、こちらの留学生制度には本学は当てはまらないという形になっています。

現状としては、先ほどお話したとおり、EJUを使った入試ですと7割強が日本国内での受験になっております。

さきほど、中国では香港でしかEJUを実施していない、と申し上げましたが、昨日ちょっと郭先生とお話をさせていただいたときに、EJUを受けるためにわざわざ日本に来日して受験する方もいらっしゃるということでした。

本学で一番多いのは、高校卒業後に来日して1、2年、日本語学校で学習しているという層です。

奨学金につきまして、入学後に申請して家庭の経済状況などを審査したうえで減免制度というものはありますが、本学独自のものとして、最初から、例えば、「試験の成績が優秀だったから、あなたは授業料50%免除です」というような制度は現在ございません。【スライド⑧-8】

現在、入学センターにはいろいろな問い合わせが来るのですが、主に英語メールでの問い合わせについて調べてみました。昨年1年間で学部入試の問い合わせとしてはおよそ80件です。これは立教のことを知っている方もいれば、全然知らなくてメールだけ送ってくる方、いろいろな大学のアドレスをCCに入れて送信してくる方、と様々です。興味深かったのは、ほとんど立教大学に出願実績がない国からの問い合わせが多いということです。例えば、イタリア、イラン、ウズベキスタン、ナイジェリア、パキスタン、バングラディッシュ、ポルトガルなど、そういうところからの問い合わせというのが来ております。

ただ、ここに書いてある問い合わせに関して要望に応えられることというのがほぼないんですね。まず、英語で学位が取れるコースは何かということで、先

ほど本学 10 学部と申し上げましたが、学部でも学科でもない GLAP というコースがございます。それは「英語での授業です」ということでご案内できます。ただ、この GLAP というのは、1 学年 20 名という非常に限られたコースになっておりまして、日本人、外国人関係なく同じ入試を受けていただくような形になっています。

それから、いきなり「9 月入学したいので、スケジュールを教えてください」というメールも来るのですが、そもそもオープンにしている 9 月入学というのが今、学部にはありません。

それから、出願資格について、「私日本語能力試験 N3 を持っているんですけど」と問い合わせがあるのですが、EJU は受けていますかと聞くと、「EJU とは何ですか」というケースもあります。

それから、どこの学部に行きたいとかではなくて、「何の奨学金がありますか」、「いつ申し込めばいいですか」、「ドキュメント（奨学金の申請書類）を送ってください」という、いきなりそこから始まるケースというのもあります。これに関しても入学前に申し込む本学独自の奨学金はありませんという形でしか回答できず、ご希望に添う回答ができないような形になってしまっています。その返答をすると、その後の連絡が途絶えてしまう、というのが現状です。

また、つい先日にも、韓国籍の方が、「今、オーストラリアで高校生活を送っていて、大学は日本に行きたいと思っていますけれども、どういう手順が必要ですか」というような、私たちが今まで想定していなかったような経歴の方たちも増えてきています。【スライド⑧-9】

今後の課題について、個人的見解を含めてになりますが、先ほど最初に池田副総長がおっしゃったように、入試制度だけではなく、奨学金、それから、もちろん授業のカリキュラム、就職につながる行動とか、いろいろなことがトータルで必要になってくると考えています。まずは情報発信の強化ですね。本学のウェブサイトについては、英語のサイトでは基本的なところだけ書いてあって、「more detail about admission (in Japanese)」みたいなページになってしまっている現状もあります。あとは、どれだけ英語のサイトを本学が充実させたとしても、いきなり立教大学をネット上で検索してくれるわけではないので、それは先ほど先生方もおっしゃっていたような現地での説明会ですとか、広報活動ですとか、そういう地道なものも必要になってくるのではないかなと思います。海外の留学

フェアとかに行きますとがっかりするほど本当に本学の知名度は低いです。そこをどういうふうに今後強化していくか、それからターゲットをどこに絞っていくかというのは非常に重要な点だと思っています。

また、本学が求める人材像の明確化およびニーズに合わせた入試の改革という、わかりにくい書き方をしておりますが、先ほど一番規模の大きい外国人留学生入試がEJUを使った入試と申しましたが、本学ではEJUの科目ごとの基準点を設けておりません。ですので、かなり出願者の点数に幅があります。立教大学はこういう人に来てもらいたい、ということを明確にするという意味では、EJUの基準点・最低点などを設けてもいいのかなと。他大学でも結構、設けているところがありますし、そういう設計が個人的には必要だと思っています。それから、先ほどお話ししたようなネイティブの方の英語の基準をどうするかとか、そういうところですね。

立教大学では今後、学部外国人留学生を倍、2.5倍にしていくという話がありました。外国人留学生を増やそうと考えているのは本学だけではありません。他大学も同じことを考えていますので、より優秀な層に興味を持ってもらうためには、そういうメッセージも必要かなと思っています。


あとは、多様な学生に対応できるカリキュラム。これは授業内容もそうですし、9月入学だったり English Track だったりということも含めてですけれども、やはりここは奨学金も含めて考えていかなければならないところかなと思っています。

今の入試制度で合格者を増やすことで目標数を目指そうとしているわけではないので、そこに関して全学的な体制を組んでやっていくことが必要であると考えております。

短いですが、私のコメントとさせていただきます。ありがとうございました。【スライド⑧-10】

- 1) 2019年1月31日、「高等学校に対応する外国の学校の課程のうち当該課程を修了した者が大学入学に関し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められるものを指定する件の一部を改正する件」(平成31年文部科学省告示第11号)が公布され、ロシアについては11年制であっても日本の大学入学資格が認められた。

【スライド⑧-1】



日本語教育センター 国際シンポジウム

正規学部留学生受け入れの新時代
—多様な留学生との学びは大学をどう変えるのか—

2019年1月26日

入学センター
堀中 春菜

★ RIKKYO UNIVERSITY

【スライド⑧-2】

01_本学の外国人留学生入試制度

①日本留学試験(EJU)を利用した入試

- 9学部で実施

②日本語能力試験(JLPT)を利用した入試

- 異文化コミュニケーション学部のみで実施

③本学での筆記および面接試験

- コミュニティ福祉学部、異文化コミュニケーション学部で実施

★ RIKKYO UNIVERSITY

【スライド⑧-3】

01_本学の外国人留学生入試制度

①日本留学試験(EJU)を利用した入試

②日本語能力試験(JLPT)を利用した入試

- 本学に来校することなく受験可能（渡日前入試）

③本学での筆記および面接試験

- 筆記（日本語）

①②③全入試において 英語外部試験の成績が必要

【スライド⑧-4】

01_本学の外国人留学生入試制度

出願資格抜粋

Cambridge English(ケンブリッジ英検)

実用英語技能検定（英検）（英語4技能に限る）

GTEC 4技能検定版

GTEC CBT

IELTS

TEAP（Reading/Listening+Writing+Speaking）

TEAP CBT

TOEFL iBT

TOEIC L&RおよびTOEIC S&W（IPテスト不可）

のいずれかを受験し、スコア・級を提出できる者。

【スライド⑧-5】

【参考】日本留学試験（EJU）

日本留学試験実施国・地域
 （日本を除いて14か国17地域）



RIKKYO UNIVERSITY

【スライド⑧-6】

【参考】日本語能力試験



日本語能力試験実施国
 （日本を除いて80か国239都市）

RIKKYO UNIVERSITY

【スライド⑧-7】

01_本学の外国人留学生入試制度

出願資格抜粋

学校教育における7～12学年の課程のうち、外国において、外国の学校教育制度に基づく課程によって、通算して5学年以上を修了した者（「飛級」により5学年以上に相当する課程を5年未満で修了した者、および2019年3月までに修了見込みの者を含む）。

【スライド⑧-8】

02_本学の外国人留学生入試の現状

【日本留学試験を利用した入試の場合】

- 7割強が日本国内での受験
（高校卒業後に来日し、
1～2年日本語学校にて学習している層が最多）

【奨学金について】

- 入学後の減免制度はあるが、本学独自のものとして入学前や合格時に奨学金の受給が確定するものはない

【スライド⑧-9】

03_入学センターへの英語での問い合わせについて

2018年1月～12月 学部入試問い合わせ約80件

- 英語で学位がとれるコースは何か
- 9月入学のためのスケジュールについて
- 出願資格に該当するか
(EJUを受験していないケース多い)
- 奨学金は何かがあるか。
申込から決定までのスケジュールについて

【スライド⑧-10】

04_立教大学今後の課題について

(個人見解)

- 情報発信の強化
(本学WEBサイト、海外での説明会等)
- 本学が求める人物像の明確化および
ニーズに合わせた入試の改革
- 多様な学生に対応できるカリキュラム